

# ライオン学校伝書鳩通信

～ライオン学校のみんなに会いに行って来ました～



## 【伝書鳩通信】

先月 3 月 25 日をもって、万石浦ライオン学校は一時休校となりました。しかし、子ども達の中にはまだまだ経過を見守りたい子がいるのが実情です。そしてなによりみんな、まだまだまだまだ遊び足りない！毎日でもいいから来い！といった様子。そこで、これまでライオン学校支援に参加していた大学生 4 人で小隊を作り、必要に応じて直接万石浦に行ってみんなの経過を見守っていくことにしました。この通信ではその活動の報告をしていきます。「伝書鳩通信」という名前は、万石浦の子ども達と遠く離れたところからこれまで支援に関わってきた大人たちとを繋ぐ伝書鳩の役割を果たしていきたいというところから付けました。

## 【え？なんているの！！？】

4 月 22 日(日)にライオン学校のみんなには内緒で私たちは万石浦に入りました。4 月も終わりというのにまだまだ寒く、桜もようやく咲き始めて満開までもう少し！という頃でした。

今回の私たちの目的は、各家庭を回って、子どもたちと保護者の方々に新学期以降の様子を伺い、余裕があればみんなと一緒に外遊びをする、というものです。いつもお世話になっているサポートセンターで自転車をお借りして、さっそくみんなのお家への家庭訪問に出発しました。

どのお家に行っても、突然やってきた私達の姿に子ども達は状況が飲み込めない様子。「え？なんているの！！？」「今日ライオン学校あるんだっけ？」と口々に疑問をぶつけてきます。不思議がりながらも、みんな目がワクワクしていました。子ども達には事情を説明して、本人やお家の方に最近の様子・新学期からの変化などを伺いました。新学期からクラス替えがあったり担任の先生が変わったり、小学生から中学生になった子もいます。学校での環境はかなり変わったようです。その変化がいい方向に出ている子もいれば、より悪い方向に向かってしまっている子もいました。また、会話の端々から保護者の方々が大変苦労していて、相談相手もなく行き詰ってしまっている様子が感じられました。私たち大学生にはお話を伺うことしか出来ず、的確なアドバイスをお答えする事は出来ませんでした。私達に話すだけでもずいぶんと気が楽になるようですが、保護者の相談相手というのは私達大学生では十分に伝えることのできないニーズであり、このことは他の支援隊のメンバーに呼びかけていきたいと思います。

話が終わって、さあ次の家に向かおうかと出発しようとする、「俺も行く！」の声。家を回るごとに自転車の隊列はどんどん大きくなって…。サポートセンターに戻ってくる頃には、ほとんどの子達がそろっていました。今回の支援隊が大学生だけだとわかった子達は、私達から携帯を奪い取り、神奈川にいる先生方に電話をかけ続けていました。子ども達には支援隊のメンバー全員の連絡先を伝えてあります。しかし、普段は子ども達の方から連絡が来ることは殆どありません。別の連絡手段として預けてある往復はがきも一部の子から以外はあまり来ることはありません。私たちが来たことがきっかけでこのような「自分から電話をかける」という行動が起きたということは、伝書鳩としての役割が少し果たせたのではないかと感じます。



## 【お昼ごはんを用意できない！】

サポートセンターに戻ったらさっそく外遊びが始まりました。まだ来ていない友達を連れてくることから始まり、集まったらみんなそれぞれにまとまって自由に外遊びをします。大人の主導なく集団遊びを始める＆参加することが、みんな本当に上手になったと感じます。

野球をしてサッカーをして、いつもならそろそろ手作りおにぎりでお昼ごはんです。しかし、今回は大学生4人という限られた人数のうえ、移動もバスだったためにお昼ごはんを用意できませんでした。みんなには一度お家に帰って昼食を取ってもらい、また午後時間を決めて集まることにしてもらいました。

今回の支援ではこの人数の少なさによる活動の自由度の低下をとっても感じるようになりました。お昼ごはんの準備だけでなく、誰かが外遊びを見ている一方で他の支援者で心配な子の家庭に伺うことや、部屋の中で作業したい子に付いてあげることなど、これまでの支援では当たり前だったことができないということが多々ありました。もちろん、これまでと全く同じ形での支援の継続を目指しているわけではないので仕方ない部分もありますが、こども達のためにもあと1~2人はメンバーが必要ではないかと感じました。



## 【支援への取り組み方・姿勢の違い】

そんな手一杯の状況の中、部屋で遊ぶ子達の様子は、午後から同じサポートセンターに来られていた別団体の方々に任せきりになってしまいました。この団体は、地域に根ざした様々な活動を行われているようで、その一環としてこども達へのレクリエーションも行なっているようです。ライオン学校のメンバーの中にもこちらの団体の活動に毎回参加している子がいます。この日もその子と外遊びに参加しない数名の子がその活動に参加し、私たちは外遊びとまだ会っていない子のお家への家庭訪問に専念することができました。大変ありがたいことでした。今後もこの団体の方々の活動に合わせて万石浦に入り、協力をお願いしようという案も出ました。

しかし、その日最後の片づけの際に、その団体の方々の支援への取り組み方・姿勢に私たちはわずかながら違和感を覚えました。本当に些細な事なのですが、公共の施設・備品を使わせていただいていることに対する意識に決定的な違いを感じたのです。こども達との接し方にも違いを感じました。この団体の方々に協力をお願いすればこども達のためにできることは増えますが、同時に支援への考え方や姿勢の違いから私たちが目指している本来の支援の目的から逸れていってしまうのではないかという意見が出てきました。ここに至り、協力をお願いをするのはやめるという決断をしました。

私たち大学生支援隊はまだ未熟で、支援に対する考え方にもまだ一貫性を持つことはできていませんが、なにかおかしいのではないかと間違っているのではないかとということに出会った時には、その時の私たちの考え方を曲げないように、そして何よりこども達のことを一番に考えて行動していこうと思います。

### ！寄付のお願い！

万石浦への移動がバス+電車となったため、交通費が必要です！継続的な支援のためにぜひ寄付をお願いします。ご寄付頂きました際には、お手数ですが右記連絡先まで一報お願いします。

#### ゆうちょ銀行

店名:〇五八店(ゼロゴハチ店) 店番:058

番号:普通 3385189

ライオン学校(ライオンガッコウ)

※ゆうちょ銀行からの振込の場合

記号:10510 番号:33851891

### 【活動記録】

○4月22日 万石浦ライオン学校支援

□支援隊メンバー:今井美里・甘利悠貴・大林沙紀・古浦新司(東京理科大学学生)

#### グループ名:ライオン学校

連絡先:〒270-0101 千葉県流山市東深井 33-4

Ridai 古谷メゾン 201 号室

TEL: 080-6554-8762(代表:今井)

Email: [info.lionschool@gmail.com](mailto:info.lionschool@gmail.com)